

HIROKYU ヒロキューの切り身エサ

韋駄天シリーズ



●様々な釣りエサを手がけるヒロキューでは、韋駄天ブランドの切り身エサの種類も豊富。今回は深海釣り用として同シリーズにあるサバの切り身エサを使用した。サイズ、数などで3種を用意。いずれも新鮮な身を使用し、アミノ酸効果で食い抜群。他にサンマ、コノシロ、キビナゴなどの製品もあり。

(韋駄天塩締めさば短冊)



(韋駄天 さば 切身)

(韋駄天 さば 細切)



▲中小型を交え7尾で竿頭



▲狙って上げた中小型の一荷釣り
▶城ヶ島沖の300~350メートルダチを狙った
◀お世話になった門向智広船長



▲ナギに恵まれた一日だった
◀1投目はユメカサゴの3尾掛け



▲メダイも上がった
◀取り込みも手慣れたもの



船中でポツポツとクロムツが掛かり始めたものの、しほみんのテンションはやや下がりが気味となる。
ところが10時を過ぎ、350メートルダチとやや深めを狙った投入で、竿先を小気味よくたたく

しほみん、ドキドキの初体験 高級魚クロムツに ワクワク

三浦半島 三崎海外港出船の ライト深海



今更の 釣りの日々

★「ホラホラ、アタってるよ～」と巻き上げ中もテンション上げ上げ

★ライトで狙う深海釣りは初めての経験、それでも良型ムツを中心に多彩な魚種を釣り上げた

はっ！

しほみんの 船釣り行脚っす! 不定期連載 ● 第5回

★小物から大物、浅場から超深海釣りまで、ほとんどの釣りを経験済みのしほみん吉野七宝実だけど、ライトタックルで狙う深海釣りは初めての経験だという。この釣りの魅力は手軽さにもあるけれど、「何が掛かってくるかわからないドキドキ感」と言う、しほみんが楽しみにしていた釣り物だ。

▲エサは持参のヒロキューの切り身エサ「韋駄天」シリーズ
▼伊三郎丸ではこんな磁石板を貸してくれる



▲ハリ数は5本程度、初心者は右の船宿仕掛けが無難
◀夜明け前の出船前から元気がいっぱい



しほみんの船釣り動画はごちらから
★当日の様子は以下のヒロキューサイトからご覧いただけます。

乗船した三浦半島三崎海外港の伊三郎丸は周年深海釣り乗合を出船しており、ファンにとっては貴重な船宿。通常は30号以上のオモリを使うのだが、伊三郎丸では20号。中型電動リールに道糸500メートル、2メートルくらいの中深海用や青物用の竿があればオーケー。女性でも手軽にチャレンジできるのだ。
しほみんは初挑戦ながら心得たもの。持参したタックルは泳がせ用の竿に中型電動の組み合わせ、胴つき5本バリ仕掛けとヒロキューの新製品「韋駄天シリーズ」の「さば細切」「さば切身」である。
6時半に出船し、20分も走ればもう城ヶ島沖300メートル前後のポイントである。この時期にはナギ、天気もよく好釣果が期待できそうな気配だ。
「今日も釣っちゃおうよ」と元気がよく第1投。スルスルと落ちていく仕掛けが止まったと同時にブルブルというアタリ。幸先よしと巻き上げるものの、見ていた船長は首を振る。上がったのはユメカサゴの3尾掛けだったが、いきなりの釣果にしほみんのテンションは上げ上げた。
次投からはサバの邪魔に苦戦、仕掛けが底まで下りてくれない。ようやくサバがおとなしくなってきたと思ったら、今度はシロムツ。アタリをキャッチ。
「これってクロムツじゃないの〜」
巻き上げが止まってたぐり始めると茶色の魚体。なんとクロムツの2尾掛けに再びテンションアップ。ここからしほみんの快進撃が始まる。
投入ごとになんらかのアタリ。この釣りのコツ、タナ取り、誘い、エサ付けをしつかり会得したようだ。終盤にもなると、「まだまだ上げないよ〜」の余裕さえ見せ、多点掛けを狙っていく。その甲斐あって、クロムツ中心に1キログラムのメダイも釣ってテンションマックス。
この日は釣り客も少なく、皆さん十分に土産分は確保したので、合意の末12時に早揚がりとした。
しほみんは7尾でトップ、他にメダイ、シロムツ、ユメカサゴなどで十分過ぎるほどの釣果。「こんなに釣れちゃって、満足、満足。あぶり刺しが待ってるよ〜」とそれからは料理談議。帰港するまでにぎやかな船上となったのだ。